

09

柏の葉

—— 柏市、千葉県、日本
2005年～

公・民・学が連携し、新規鉄道路線の郊外型TODの持続的発展を牽引

Key Issue

つくばエクスプレス(TX)とその沿線開発は、首都圏交通網の強化/効率的な鉄道用地の確保/良質な大量住宅供給/駅周辺の乱開発防止のために、我が国の都市開発の強みである鉄道整備と沿線開発を一体的に推進する手法のもと整備された。沿線開発において、質の高い土地活用と持続可能な発展を図ることが各駅の課題であった。そのため柏の葉エリアは、最先端の研究施設を持つ大学及び多数の民間企業が立地している特徴を活かし、「公・民・学」が連携するあたらしいまちづくりを進めている。

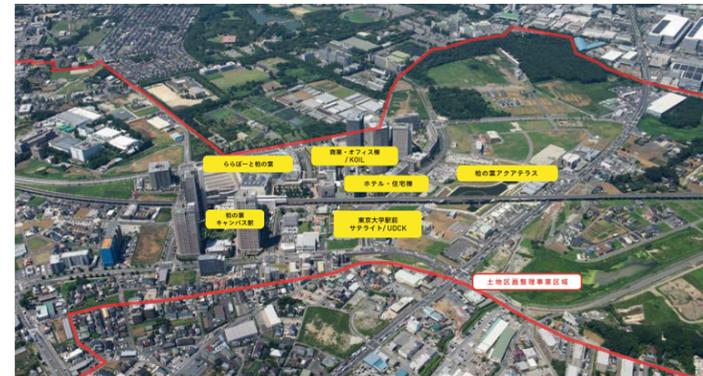
Project Approach

公・民・学プラットフォームの設立

将来像を公・民・学で共有するために「柏の葉国際キャンパスタウン構想」を策定、これに基づき各主体が事業を展開し、毎年フォローアップを行い、事業を見直している。多様な主体間の連携を促す実行組織として「柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)」を設置、同構想のフォローアップなどの事業推進支援、駅前や調整池等の高質化を図る公共空間デザイン及びエリアマネジメント、住民向けイベントの企画・運営などを担っている。



つくばエクスプレス(TX)は、東京(秋葉原)と筑波研究学園都市(つくば)の間に設置された鉄道である(延長58km、20駅)。UR都市機構は、TX沿線開発全20地区約3,300haのうち7地区約1,600haの開発を担当した。



柏の葉キャンパス駅周辺(2017年)
今後も環境と共生しながら周辺部の開発に軸足が移っていく。
出典: 柏の葉アーバンデザインセンター

Data

面積	約400ha(中核エリア)
事業主体	千葉県、柏市、千葉大学、東京大学、UR都市機構、三井不動産株式会社(柏の葉国際キャンパスタウン構想委員会メンバー)
計画人口	40,000人弱
主な導入施設	大規模ショッピングセンター(ららぽーと柏の葉)、商業・オフィス棟、ホテル・住宅棟、AEMS*4、ベンチャー支援拠点(KOIL)

To the Next Phase

駅を中心としたスマート・コンパクトシティの形成を目指して、民間及び公共が連携するデータプラットフォームを構築し、AI、IoTを活用した自動運転バスの導入や人流解析に基づく空間デザインなどに取り組んでいく。

